

# 「山形県農林水産研究開発方針」の方向性(案)

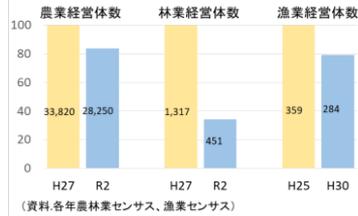
## 背景

## 課題

## 研究開発の方向性

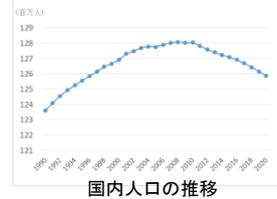
### 構造・生産基盤変化

- 生産者の減少と高齢化
- 担い手の規模拡大
- 経験の浅い新規参入(就農)者・退職帰農者・雇用の増加
- 内水面漁業生産額の減少や漁協組合員の減少
- 長期的な林業の低迷に起因する森林経営管理制度導入に伴う市町村主体の森林整備



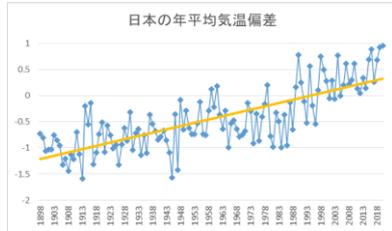
### 社会・経済環境の変化

- 新型コロナウイルス流行に伴う経済環境の変化並びにその対策における生産方式や生活様式の変化
- 消費者の嗜好及び実需者ニーズの変化や多様化と国内産農水産物への需要の高まり
- 国内人口の減少、高齢化に伴う内需減少による産地間競争・生産者間競争激化への懸念
- アジア地域を中心とした新興国等の経済成長による需要拡大
- TPP協定の発効による安価な輸入品との競合(短期的)、輸入量の拡大による国産価格全体の低下(長期的)の懸念
- 遊漁者の減少
- 需要の高まりによる磯根資源の漁獲圧が増大
- 養殖用配合飼料の価格上昇による養殖業者の経営圧迫



### 自然環境の変化

- 「持続可能な開発目標(SDGs=Sustainable Development Goals)」の達成
- 温暖化、豪雨、大雪、異常高温等による農林水産物の収量・品質への影響
- 温暖化の進行による病害虫の発生様相の変化
- 家畜伝染病の多様化
- 河川環境の変化
- 底びき網漁業での資源の低迷
- 高齢広葉樹林の増加
- ゼロカーボンやまがた2050宣言



### 技術の進展

- ICT、ロボット技術、AI等先端技術の発展
- DNAマーカー等育種技術の急激な進歩
- 試験研究機関の施設・設備の整備、高度化(農業総合研究センター(加工支援ラボ等)、園芸農業研究所、水産研究所(漁業試験調査船「最上丸」等))

・あらゆる環境の変化に対応しながら安定した農林水産業の維持発展につなげる品種が必要。

○農林水産業の発展を支える本県オリジナル品種の開発

・スマート農林水産業技術等を活用して収益性の高い農林水産業を展開し、大規模経営に加え中小規模経営も支えるとともに、雇用の安定にも配慮していくことが必要。  
・本県特産品目の生産の振興や農業・農地・養殖業・森林を守り持続可能で活力ある中山間地域の振興が必要。

○農林水産業の構造・生産基盤の変化に対応した農林漁家の収入拡大・経営安定を目指す技術の開発

・国際的な競争力の強化が必要。  
・さくらんぼ等本県代表品目の販路確保と観光資源としての活用強化や食品加工産業、観光面および外食産業にもたらす波及効果の拡大が必要。

○社会・経済環境の変化に対応して競争力強化を実現する新たな価値を創出する技術の開発

・自然環境の保全と環境と調和した持続可能な農林水産業の推進が必要。  
・安全、安心な農産物の生産が必要。

○自然環境の変化に対応してSDGsにも貢献する持続性確保技術の開発

・技術の進展に応じた高度で効率的な技術開発を進めていくことが必要。

○先端技術を活用した先導的技術・手法の開発